

アズワン株式会社様

ソリューション : KAREN-CORE SaaS

理化学機器(実験機器・計測機器等)のレンタル事業において、特有の業務プロセスを効率化するため、KAREN-CORE SaaSを導入



アズワン株式会社

<https://www.as-1.co.jp/>

業務内容: 研究用機器機材、看護・介護用品、
その他科学機器の販売、レンタル

住所: 大阪府大阪市西区江戸堀二丁目1番27号
 設立: 昭和37年6月1日
 資本金: 50億7500万円
 売上: 1,037億5100万円
 社員数: 731名
 代表者: 代表取締役社長 CEO 井内 卓嗣
 拠点: 本社・別館 他、全国各地に20以上の拠点

アズワン様は理化学機器(実験機器、計測機器等)、研究用消耗品、病院・介護向け用品、産業機器を取り扱い、研究者や現場が必要なモノを即日配送可能とするWeb通販と物流網を強みとする総合商社です。このうち、レンタル事業において、特有の業務プロセスを効率化するため、レンタル業務システム「KAREN-CORE SaaS(以下、KAREN-CORE)」をご導入いただきました。

■ 導入経緯、以前の課題を教えてください。

弊社では理化学機器の販売を中心に行ってききましたが、今後、レンタル事業を更に伸ばしていくためにも、レンタルに最適化されたシステムの必要性を感じていました。

また、システム導入にあたり、以下の管理を行いたいと考えていました。

1. 厳密な資産管理(商品管理)
2. 間違いのないレンタルスケジュール管理
3. 在庫回転率の可視化
4. 商品毎の個体管理(シリアルナンバー管理)
5. 機器検査実施
6. トレーサビリティの実現
7. 機器の貸出・メンテナンス履歴の管理
8. 返却期限アラート



■ システム選定はどのように行いましたか？

ネット検索にてKAREN-COREを見つけました。
 また、よく知っている同業他社の事例がある事から信頼できると考え、複数回の打ち合わせの後、採用を決めました。



■ KAREN-CORE の導入により、課題解決につながりましたか？

当初の目的である”レンタル業務のシステム化”を実現し、多くの課題を解決することが出来ました。

ただし、標準機能による運用を最優先としたため、一部要件を見送る決断を行いました。

■ KAREN-CORE 導入～定着後の課題を教えてください。

KAREN-CORE を”カスタマイズせず、標準機能で利用する方針で導入”したため、以下のような課題が発生しました。

1. 全社基幹システムが別にある為、各種マスタ、データのシステム間連携の実現にあたり、3社(弊社、基幹システムベンダ、キッセイコムテック)間の調整に苦労しました。
2. 複数システムでの二重管理による業務負荷増を避けるため、以下の機能は KAREN-CORE では使用せず、基幹システムで対応することとしました。
 - ・倉庫管理(入庫・出庫・在庫管理)
 - ・売上・請求管理
3. 機器検査は、システム外での運用とすることで対応を見送りました。

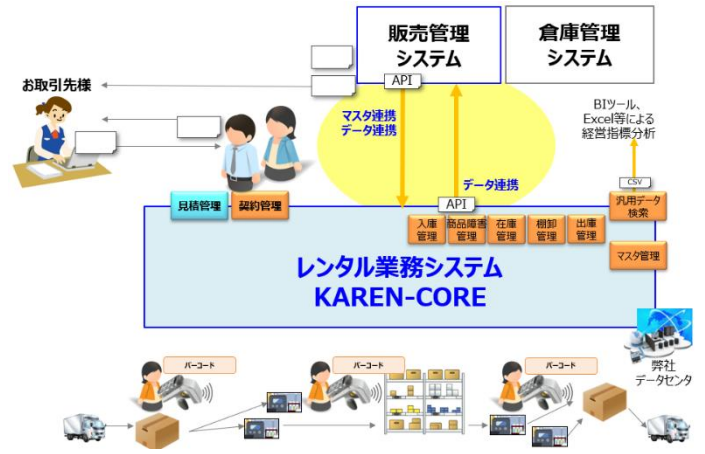
⇒KAREN-CORE は無事に稼働しましたが、基幹システムとは独立稼働しており、システム間のデータ連携は人的作業で対応する運用となっています。

■ 後継プロジェクトについて教えてください。

KAREN-CORE を導入してから数年が経過し、安定した運用が確立した段階にて、改めて現状課題とボトルネックを洗い出しました。その結果、以下の対応を行いました。

1. KAREN-CORE で倉庫管理機能、売上計上が行えるようシステム設定及び運用フローを変更しました。
2. 上記対応を実現する際、KAREN-CORE と基幹システムで重複する商品マスタ、顧客情報、契約データ、出荷依頼データ、在庫データ、売上データをAPI連携できるように対応しました。

⇒API 機能を広範囲に活用する事で、人的コストの削減につながりました。また、人的作業を介さないことによるミス排除にもつながりました。



■ 今後の計画・展望について教えてください。

今後、更なる”レンタル業務改善”を目指し、業務とシステムの両面での見直しを掛けていく予定です。



■ 今後の貴社ビジネス発展に向けて、何か施策を検討・実施していますか？

弊社全体の成長率が年平均 5～10%程度で推移する中、レンタルを含むサービス事業は全社平均以上の伸びとなっており、弊社の将来を担う高成長ドライバーとして位置付けています。

今後も弊社の持続的成長と発展につながるよう、以下の取り組みの更なる強化を計画しています。

1. 圧倒的な品揃えと即納体制
2. Web 通販 ”AXEL”
3. 自社のデジタル化推進と業務効率化
4. ニッチ分野でのトップシェア維持
5. AI、ロボット等の新技術活用

— アズワン様、貴重な情報をご提供いただき誠にありがとうございました。